



大島の神崎層(古第三系)から

貝化石の発見とその意義

『新修宗像市史』自然部会から

自然部会では、宗像の歴史の基盤をなす自然環境を地理や地質、生物などの領域に区分して調査し、原稿執筆を始めています。今回は地質領域から、宗像の海に関する新発見を紹介します。

■問い合わせ先 郷土文化課 ☎(62)2600

これまで考えられていた

神崎層の年代と環境



大島の北側海岸にある大島灯台付近とその東側に、神崎層という砂岩や礫岩(れきがん)でできた地層が小規模に分布しています。島の観光スポットである「馬蹄(ばてい)岩」はこの地層の一部にみられます。これまで、神崎層は大島の基盤をなす関門層群(約1億年前)よりは新しい地層であることは分かっていたのですが、形成年代や

新たに発見された貝化石の正体



ところが、2年前に市史編さんのための地質調査を始めた私たちは神崎層から貝化石を発見しました。発見現場は東側ブロックの東端の断崖絶壁

になっていくところでは遊歩道



(写真1) 貝化石が発見された神崎層の露頭

堆積環境を示すような化石が見つかっていないため、岩相的に類似する宗像層群に対比されています。宗像層群は宗像市内の丘陵部に広く分布し、かつては宗像炭田として石炭を産出していた古第三紀始新世の地層群です。つまり、神崎層は宗像層群と同様に、約4千万年前の陸成層と考えられていました。

2億の暗青灰色の礫まじり砂岩層が挟まれています。貝化石はこの層に散在して含まれています。崖をよじ登って探すのは危険なので、そこから剥

がれ落ちた転石中から採集しました。

貝化石は保存が悪く、殻は大半が溶解しており、茶褐色や暗緑色の型が残っているだけです(写真2)。一部は変形が著しく化石種の同定を一層難しくしています。今までに二枚貝化石20個体余りが掘り出され、少なくとも4種には区別できます。タマキガイ類、大型イガイ類が含まれることから、浅海生の貝化石群とみられます。タマキガイ類は4個体以上産出

日本海形成の謎に迫る(?)

貝化石



神崎層から海生貝化石の発見という新事実はその自体に意義があります。「日本海の形成・成立」という大テーマにも関連する可能性が高くなってきました。日本海は日本列島が大陸から切り離され、開いた溝に北側から海水が流れ込んできたとされます。2千5百万年前頃に始まりました。約1千5百万年前から本格的に拡大し、暖流が流れ込むようになって現在の形になったとされるのです。神崎層や芦屋層群の存在は、これに先行して3千万年前に九州北部で発生した地溝帯に南側から海が侵入した



(写真2) 二枚貝化石(下の正方形の辺が1センチ)



(新修宗像市史編集委員会 自然部会・鈴木清一)

本年度100歳を迎える大石アサコさん(赤間西)を9月14日、谷井博美市長が訪問しました。大石さんは、大正7年1月、9人兄弟の真ん中として山口県で生まれました。現在は、長女の牧子さん家族と暮らしています。

市長に会えるのを楽しみに待っていた大石さん。足腰も丈夫で、買い物に出掛けるとカートを押して店内を回ります。食べ物の好き嫌いはなく、何でも食べられるのが長生きの秘訣とのこと。また、手先が器用で編み物が好き。昨年は、ひ孫にセーターを編んであげたそうです。今も編みかけている物があるようで、それらを編み上げるまでは元気でいたいと話されました。

大石さん、いつまでも元気でいてください。

■問い合わせ先 高齢者支援課 ☎(36)9288



谷井市長と編み物の話をする大石さん

100歳 長寿 拓めでどうぞございます



東 長寿 番付 西

(番付内容は9月1日現在、満年齢)

志原 マサコさん <105歳> (河東) 明治45年 2月生	横綱	古野 あさのさん <104歳> (東郷) 大正 1年11月生
岐部 照代さん <103歳> (日の里) 大正2年 9月生	大関	赤田 ツヤ子さん <103歳> (河東) 大正 2年10月生
増田 トミコさん <103歳> (吉武) 大正 3年 2月生	関脇	青木 美代子さん <103歳> (自由ヶ丘) 大正3年 3月生
片山チヅコさん <103歳> (自由ヶ丘) 大正3年 7月生	小結	小川 ヨシさん <102歳> (河東) 大正3年 9月生
茂田 ツヤコさん <102歳> (大島) 大正3年10月生	前頭筆頭	樋口 幸子さん <102歳> (池野) 大正3年 11月生

本年度に100歳を迎える人は28人。100歳以上は、新100歳を含め、105歳を筆頭に77人。99歳(白寿)は37人、88歳(米寿)は518人
*この番付には、公表承諾者のみ掲載しています